

令和6年度豊橋市健幸なまちづくり協議会母子保健推進部会議事録

日時	令和6年10月16日(水) 午後3時～午後4時30分
場所	豊橋市こども発達センター 研修室
出席委員	豊橋市健幸なまちづくり協議会母子保健推進部会委員6名
事務局	豊橋市保健所こども保健課
会議の議題	報告(1) 母子保健分野の現状について 報告(2) 令和5・6年度の新規および拡充事業実績について 議題 豊橋市におけるプレコンセプションケアの現状と課題について
議事の概要	以下に記載
事務局	報告(1) 母子保健分野の現状について
委員A	小さいころからかかりつけ歯科医を持つことが増加していると思う。しかしコロナ禍があり小中学校で歯磨きやフッ素洗口ができていなかった。う蝕が増えてくるのではないかと懸念している。
委員B	10代の人工妊娠中絶は件数にすると今後減っていくだろう。ただ全体の件数も減っていくので割合としては変化はないと思う。妊娠全体も同様で若い世代が減少するので妊娠の件数も減少していくと考える。 10代の人工妊娠中絶に関しては、中絶を必要としなくなるよう、避妊の方法などを啓蒙していく必要があると感じている。
事務局	報告(2) 令和5・6年度の新規および拡充事業実績について
委員C	年5回のマタニティサロンで妊婦と話ができる機会がある。その時には出産を終えた先輩パパ・ママにも来てもらっている。 近年、里帰りをせずに夫婦で子育てをスタートしたいという気持ち強い人が増えている。妊婦だけでなく夫も同じ様に思っているようで平日昼間のマタニティサロンだが4割が夫婦での参加になっている。夫から先輩パパに対しては「育休の取り方、職場とどのように調整したか」、先輩ママに対しては長く育児休暇が取れないなかで「いつの時期にいて欲しいか」を質問する方が多い。 また、妊娠中は出産がゴールになっており産後のイメージができずそのような中に産後ケアという事業が二人で子育てをする夫婦にとっては助かっていると感じている。 子育て支援センターでは妊娠から継続して関わる事例はあまりないが、マタニティサロンでの先輩パパ・ママからのアドバイスやセンターへの相談、保健師などの支援など妊娠中から継続的な支援ができることもある。タイミングよく支援ができること、ピアサポートが有益だと感じている。

委員 B 産後ケア事業の拡充について、今年度の予算がこのようにスタートしているが、今年度産後ケア施設が増え、数がとても増える可能性があるが大丈夫か。また、そのあたりも踏まえて来年度予算がついているのか。

事務局 どなたにも必要なサービスだと思う。希望される方が利用できるように対応していきたい。

事務局 議題 豊橋市におけるプレコンセプションケアの現状と課題について

委員 D 小中学校を対象にたばこや薬物乱用についての出前講座を希望する学校に行っている。受講後のアンケートを見るとたばこはただ悪いだけでなくなぜ繰り返し吸ってしまうのか、帰ったら親に伝えたいなど大きな反響をいただいている。全校ではなく希望する学校にしか授業できていないので性に関することも希望する学校だけでなく市内全校で実施できればよい。市の関係課でうまく連携できるといい。

委員 C 子育て支援センターに隣接する保育園ではまず環境面ではプールの位置を一般道から見えない位置に配置したりパーテーションで目隠しをする。プールの隣に支援室があるが室内からも見えないように目隠しをしたり、部屋のカーテンをしめるようにする。その時に支援センターを利用中の保護者に「保育園の子たちがシャワーをするからしめさせてもらうね」と一声かけるようにしている。すると保護者から「どうして」という質問が上がるので「どんなに小さくても体を見られるような環境は良くないからしめる」と伝えるようにしている。また、プールでは、年少児以上はラップタオルを使用し、年長児はその中で着替えをするよう指導している。発達によってはうまくできないこともあるが部屋の隅の死角になるようなところで着替えるようにしている。

また、園庭から見えるトイレはトイレの中が見えないようにカーテンをしている。プールが始まる前に年長クラスについては絵本を用いてプライベートゾーンについて話をするようにしており、自分の体は大切なんだということを意識してもらっている。子ども同士でキスをしようとするような場面もあるが、口もプライベートゾーンであることも伝えている。

男性保育士もいるが、男性保育士は男女が入るトイレの掃除をしないなど配慮もしている。また、外国籍の方たちの文化の違いを理解し、言語や表現の仕方に留意するよう職員間で共通理解に努めている。

委員 E 小児科の診療の場でも昔は診察時に服を上げるというのがあたりまであったが、今は視診など必要な時以外は上げないような声掛けもしている。自然に日常的に守られているのだと感じている。

命について、小児科医の中でも高校に対して授業を行いたいという動きがある。出生

前診断など、様々な命についての授業を東京ではすでに行っており評判が良い。

議長 性教育の必要性についてご意見いただきたい。

委員 B 5年前から高校3校に講座をしているが印象としては年々生徒がおとなしくなっている。それに伴って性的な活動もちょっと落ち着いているという感じがある。性の情報の入手手段がスマホに偏っており情報過多。そこでいかに正しい情報を得て自分のものにしていくことが重要で性的なことだけでなく社会的基盤もあるが、そこを伝えるようにしている。

あとはやはり妊娠適齢期を知ることがメインに話している。妊娠適齢期は忙しい時期と被る、それはどうしようもないが知っておくことによって行動につながる。

今、私は高校生に授業しているが本来は中学でやるべき内容ではないかと思う。また、講師をする人も時間も限られてくるのでウェブや同時ライブ配信みたいなことができればよいと思う。市のほうでも検討していただきたい。

議長 事務局から一般向けのプレコンセプションケアセミナーを実施したが受講者は少ない状況と報告があった。従来からどの分野においても無関心層へのアプローチの仕方は課題になっているがプレコンセプションケアのターゲットとしたい10代後半から20代前半の無関心層への効果的なアプローチ方法について意見、助言はないか。

委員 F 自分が関心がある分野でも、興味はあるが実際にはよくわかっていないということを最近よく感じる。自分自身の健康についてもどこか他人事のようなところもある。そのなかでも話を聞いたりパンフレットをもらうことで知識として残っている子もいる。やはり直接話を聞く機会があるとよいと感じる。

また、情報をホームページに載せてもなかなか見てくれない。インスタグラムなど自分の興味があるものがどんどんアップされてくるようなものしかみてくれない。他市のご当地芸能人のように学生、10代20代の子が好きなものとタイアップできるとよい。一度アクセスすることであとは情報を取りに行かなくても引っ付いてくるような形になると思うのでまずはどこかでひっかけないといけない。

全体的に知らせても自分事として情報をキャッチしてもらえない。ピンポイントで「あなた」としないとなかなか自分事にとらえない。そこを考えないといけない。

委員 E こちらの言いたいことを相手の立場に落とし込んであげるような説明をするようにしている。

委員 F 中学生の講座は増える予定はあるのか、増やしていくのはむずかしいのか。

事務局 増やしていきたいと考えている。先ほど意見をいただいたようにウェブを使うなど内

容もちろん、運営方法なども学校と相談しながら進めていきたい。また、今回の課題として挙げたように、希望した学校だけではなくて正しい情報やもしくはここに聞けばいいということなどをどの子にも届くようにしていきたい。これからも何かアイデアがあればご教示願いたい。

委員 E

きめ細かく高校、中学に要望きいていくと意外と出てくるかもしれないので、それを他学校にも展開して1校1校増やしていけるとよい。

事務局

この事業単独ではなく、プレコンセプションケアも性に関するだけでではなく若い世代から将来を見据えた健康づくりということをお伝え出来る場面があっているのかと感じている。内容についても工夫ができることがあればと思っているのでこれからもお知恵をお貸しいただきたい。

議長

本日の議題はこれで終了。全体を通じて何かご意見等はあるか。

事務局

貴重な意見をいただきありがたい。幼少期から自分を大切にして欲しいし、そのことが自然に配慮されていくように環境を整えていきたい。